

# 岡崎市技能業務職員定員適正化計画 (R8.4.2～R18.4.1) 概要

## 1 目的

第7次岡崎市定員適正化計画の下位計画として、技能業務職員の担うべき業務を整理し、適正定員を検討し、その実現を図ります。

## 2 これまでの取組みと結果

- ・ 民間事業者が遂行可能な分野における民間委託の遅れを整理し、民間の技術やノウハウの活用により「市民サービスの向上」「行財政運営の効率化」が可能な業務について民間委託を推進することで、技能業務職の職員数を削減してきました。
- ・ 技能業務職の職員数は  
平成28年4月1日：433人⇒令和8年4月1日：286人 ※正規のみ  
と大幅な減員となりました。

## 3 現状分析と課題

- ・ 大規模災害（地震・大雨等）が頻発する状況になっており、発災直後に市民生活を守る一次対応に従事する技能業務職員の一定数の確保が必要です。
- ・ 人口、特に生産年齢人口の減少が顕著であることを背景に転職市場が活発化し、20～30代職員の退職が増加しています。
- ・ 民間企業の積極的な求人の煽りを受け、採用試験の応募者や新規採用職員が相対的に減少し、専門性の高い分野での技術継承が困難となっています。
- ・ 業務の専門性が高い分野などでは、直営で業務遂行した場合と比較して、民間委託するコストの方が大きくなるケースも見受けられるようになってきています。

## 4 定員適正化計画

### (1) 方針

社会情勢や労働市場の変化に柔軟かつ的確に対応できるよう、これまでの「職員数の一律の削減」という手法から方針を転換し、各業務の性質に基づいた「人員配置の最適化」による、効率的かつ持続可能な業務執行体制の確立を目指します。

### (2) 計画策定にあたっての具体的取組み

- ・ 大規模災害時の一次対応を想定した場合に、最低限必要となる人数を整理しました。
- ・ 民間委託した際の、市民サービスの向上等のメリットの検討をしました。
- ・ 業務委託可能な業務は、直営実施の場合の人件費と業務委託した場合の委託費の比較をしました。
- ・ 新規採用の困難化を踏まえた直営による業務遂行の持続可能性を検討しました。

### (3) 業務区分のグルーピング

業務の「公共性・緊急性」「専門性・技術継承」「市場性・経済性」を検証のうえ、各業務区分を以下の4グループに分類し、適正人員数（目標人数）の確保に取り組みます。

A：直営体制の堅持    B：民間委託の推進、拡大    C：継続検討    D：組織・業務の再編

### (4) 定員の設定

年齢層	基準値 R9.4	計画終期目標値 R18.4	増減
現役層（～60歳）	266	264	▲2
高齢層（61歳～）	59	52	▲7
計	325	316	▲9

## 5 計画推進にかかる留意事項

「行財政運営の更なる効率化」を進める一方、直営維持業務の技術継承、近年多発する大規模災害の発災直後の市民生活の確保とそのために必要な職員数の確保といった課題に対応すべく本計画を策定していますが、行政を取り巻く環境変化への的確な対応を念頭に置きながら、必要に応じて臨機応変な本計画の見直しを実施し、適切な定員管理を進めていくこととします。